

- 問1 東北地方の太平洋側に位置する岩手県について、その県庁所在地と、県東部の沿岸に広がる複雑に入り組んだ地形の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
1. 仙台市、リアス海岸 2. 仙台市、干拓地 3. 盛岡市、カルデラ 4. 盛岡市、リアス海岸
-
- 問2 ある地域の気候統計において、1月の平均気温が1度前後と低く、年間の降雪日数が100日を超えている地点があります。また、この地点は周囲を山に囲まれているため、沿岸部と比較して夏と冬の気温差が非常に大きくなっています。このような気候の特徴を持つ地形の名称と、気候の特色の説明として正しい組み合わせはどれですか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)
1. 地形は扇状地であり、砂礫層が厚く水はけが良いために、冬の放射冷却による冷え込みが特に厳しい。 2. 地形は台地であり、標高が高いため一年を通じて常に気温が低く、夏も涼しい。 3. 地形は盆地であり、海から離れた内陸に位置しているため気温の変化が大きいの。 4. 地形は平野であり、海からの湿った風が遮られることなく吹き込むため、年間を通じて雨が多い。
-
- 問3 東北地方に位置する秋田県の農業は、全国的にも有名な「あきたこまち」などの稲作が盛んですが、その生産統計上の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 冷涼な気候を利用したりんごなどの果実栽培に特化しており、県全体の農業生産額の半分以上を果実が占めている。 2. 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。 3. 大都市への出荷を目的とした施設園芸農業が中心で、米よりも花きや工芸作物の生産に力を入れている。 4. 広大な土地を活かした大規模な畜産業が最も盛んで、米の生産額よりも豚や鶏などの畜産の生産額が大幅に上回っている。
-
- 問4 仙台市の気象統計において、1993年の7月から8月にかけての月別平均気温が、過去30年間の平年値を大きく下回る記録的な冷夏となりました。この低温現象の主な要因となった、オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東の風を何と呼びますか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
1. フェーン 2. からっ風 3. 季節風 (モンスーン) 4. やませ
-
- 問5 東北地方の多くの県において、「耕地面積に占める田の割合」が他の地方に比べて高い傾向にある理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 広大な平野部を利用して大規模な稲作が中心に行われており、畑に比べて水田の面積が圧倒的に広い。 2. 一年を通じて温暖な気候を利用し、同じ土地で米を二回作る二期作が広く行われているため。 3. 都市部への出荷を目的とした野菜栽培 (近郊農業) を制限し、伝統的な米作りを法律で強制しているため。 4. 県全体の面積に対して耕地そのものが占める割合が低く、山間部のわずかな土地がすべて水田として利用されているため。
-
- 問6 日本の東北地方における夏の気候について述べた文として、月平均気温の分布の特徴と、その背景にある要因の組み合わせとして最も適切なものを選びなさい。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)
1. 太平洋側の気温が日本海側より低くなる。要因は、冷涼な北東の風である「やませ」が流れ込むためである。 2. 日本海側の気温が太平洋側より低くなる。要因は、冬の季節風の影響で積雪が多く、地表の温度が上がりにくいためである。 3. 太平洋側の気温が日本海側より高くなる。要因は、暖流である黒潮の影響で温暖な空気が供給されるためである。 4. 日本海側の気温が太平洋側より低くなる。要因は、対馬海流の影響で冷たい空気が停滞するためである。
-
- 問7 冬の降水量について、日本海側に位置する秋田市が、太平洋側に位置する宮古市よりも顕著に多い理由として最も適切な説明はどれですか。地形と風の影響に着目して選びなさい。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
1. 夏に吹く南東の季節風が奥羽山脈に遮られ、日本海側でフェーン現象が起こるため 2. 暖流の対馬海流の影響で上昇気流が発生し、奥羽山脈の西側で雨が降るため 3. 湿った北西の季節風が奥羽山脈にぶつかり、日本海側に雪を降らせるため 4. 冷涼な北東風であるやませが奥羽山脈を越え、日本海側に水分をもたらすため
-
- 問8 夏の東北地方において、オホーツク海高気圧から太平洋側に吹き込み、奥羽山脈の東側で気温が上がらなくなる原因となる冷たく湿った風を何といいますか。 (2020年 北海道公立入試 類似)
1. モンスーン 2. やませ 3. フェーン現象 4. からっ風
-
- 問9 東北地方の太平洋側に位置し、岩手県の南、福島県の北に隣接する県があります。この県は北部において海岸線が複雑に入り組んだ地形を持ち、その穏やかな波を利用してカキやワカメなどの「育てる漁業」が盛んなことで知られています。この県の名前を次の中から選びなさい。 (2019年 広島県公立入試 類似)
1. 秋田県 2. 山形県 3. 福島県 4. 宮城県
-
- 問10 海面養殖業による「わかめ類」の収穫量において、岩手県が全国の38.8%、宮城県が32.1%を占め、この2県だけで全国の約7割に達しているという統計データがあります。このように、三陸海岸沿岸でわかめ類の生産が非常に盛んである理由を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2019年 富山県公立入試 類似)
1. 水深200mまでの浅くて平坦な大陸棚が広がっており、太陽光が届きやすいため海藻類の成長に好都合だから。 2. 寒流の親潮と暖流の黒潮がぶつかる潮目 (潮境) に位置しており、プランクトンが豊富で魚の種類が多いため。 3. 海岸付近に大規模な干拓地が形成されており、真水と海水が混ざり合う広大な浅瀬が人工的に作られているから。 4. 複雑に入り組んだ湾内は、周囲の地形によって外海からの波が遮られ非常に穏やかであり、養殖施設の設置に適しているから。
-
- 問11 東北地方における緯線の位置関係を説明した文として、正しいものはどれですか。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. 東北地方の最北端付近を北緯35度線が通り、最南端付近を北緯30度線が通る。 2. 青森県と岩手県の境界付近を北緯40度線が通り、宮城県と福島県の境界付近を北緯38度線が通る。 3. 東北地方の中央部を北緯45度線が通り、これが北海道との境界になっている。 4. 青森県と岩手県の境界付近を北緯38度線が通り、宮城県と福島県の境界付近を北緯40度線が通る。
-
- 問12 北緯40度の緯線上に位置する世界の主要な地形について、ユーラシア大陸から北アメリカ大陸にかけて東回りに進んだ際の地理的な順序として正しいものを次の中から選びなさい。 (2026年 広島県公立入試 類似)
1. 黄河 → 最上川 → アンデス山脈 → アパラチア山脈 2. 黄河 → 北上川 → ロッキー山脈 → アパラチア山脈 3. 長江 → 信濃川 → ロッキー山脈 → アパラチア山脈 4. 黄河 → 北上川 → アパラチア山脈 → ロッキー山脈

答え合わせ・解説

問1	答え 4 盛岡市、リアス海岸	岩手県は東北地方の北東部に位置し、県庁所在地は内陸の盆地に位置する盛岡市です。県の東側は太平洋に面しており、特にその南部は山地が沈水してできた複雑な入り江を持つ「リアス海岸」となっているのが大きな特徴です。仙台市は隣接する宮城県 <small>の県庁所在地であるため、混同しないよう注意が必要です。</small>
問2	答え 3 地形は盆地であり、海から離れた内陸に位置しているため気温の変化が大きい。	周囲を山々に囲まれた盆地は、海からの影響を受けにくいため、夏は熱がこもりやすく、冬は冷え込みが厳しくなる「内陸性気候」の特色を示します。これにより、沿岸部と比較して年間の気温の変化（年較差）が非常に大きくなります。福島県の若松などはその代表例であり、冬の低温と内陸特有の気温変化、そして日本海側からの影響による降雪の多さが組み合わせられています。
問3	答え 2 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。	秋田県は全国有数の米どころであり、農業生産額において米が占める割合が非常に高いのが最大の特徴です。単に米だけを生産するのではなく、農業経営の安定のために野菜や畜産なども取り入れた「複合経営」が行われている点も重要です。他の選択肢にあるような畜産特化型（鹿児島県など）や果実特化型（青森県など）とは統計上の数値構成が明確に異なります。
問4	答え 4 やませ	1993年は日本全体が記録的な冷夏に見舞われ、特に東北地方の太平洋側では「やませ」の影響が強く現れました。オホーツク海から吹くこの風は非常に冷涼であるため、長期間吹き続けると稲の生育が著しく阻害されます。この年は全国的な米不足となり、海外から緊急輸入が行われるなどの社会現象にも発展しました。
問5	答え 1 広大な平野部を利用して大規模な稲作が中心的に行われており、畑に比べて水田の面積が圧倒的に広い	東北地方は「日本の穀倉地帯」と呼ばれ、庄内平野や仙台平野などの広大な平野を中心に稲作が極めて盛んです。農業の主体が水田による米作りに置かれているため、耕地の構成において畑よりも田の占める面積が非常に大きくなり、結果として「耕地面積に占める田の割合」が高くなります。二期作は主に温暖な高知県などで行われてきたものであり、東北地方の特色ではありません。
問6	答え 1 太平洋側の気温が日本海側より低くなる。要因は、冷涼な北東の風である「やませ」が流れ込むためである。	東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から「やませ」と呼ばれる冷たく湿った北東の風が吹き込むため、日本海側に比べて8月などの月平均気温が低くなる傾向があります。この冷涼な気候が長く続くと、稲の生育に悪影響を及ぼす冷害が発生する原因となります。
問7	答え 3 湿った北西の季節風が奥羽山脈にぶつかり、日本海側に雪を降らせるため	日本の背骨にあたる奥羽山脈は、冬に日本海を渡って湿気を蓄えた北西の季節風を遮る役割を果たします。この湿った風が山脈にぶつかって上昇することで、日本海側に多くの雪をもたらします。一方で、山脈を越えて太平洋側に吹き降りる風は乾燥しているため、宮古市などでは秋田市に比べて降水量が少なくなります。
問8	答え 2 やませ	この風は北東の海から吹き込み、冷たく湿った空気を運んできます。東北地方を南北に走る奥羽山脈に遮られることで太平洋側の地域に留まりやすく、夏でも気温が上がらない原因となります。冬に関東地方などで吹く「からっ風」や、山を越えた風が高温になる「フェーン現象」とは異なる特徴を持ちます。
問9	答え 4 宮城県	宮城県は東北地方の太平洋側に位置しています。県北部の海岸線は、山地が海に沈んでできた複雑な凹凸を持つリアス海岸となっており、波が穏やかな湾内ではカキや海苔などの養殖業が発達しています。また、県庁所在地の仙台市は東北地方唯一の政令指定都市であり、経済や文化の中心地となっています。
問10	答え 4 複雑に入り組んだ湾内は、周囲の地形によって外海からの波が遮られ非常に穏やかであり、養殖施設の設置に適しているから。	三陸海岸に代表されるリアス海岸は、入り江が深く入り組んでいるため、外海の荒波の影響を直接受けにくい構造になっています。養殖業ではいかだなどの設備を海面に浮かべる必要があるため、波が穏やかであることは必須条件です。この地理的条件を最大限に活用することで、岩手県や宮城県ではわかめなどの養殖業が全国屈指の規模となっています。選択肢にある「潮目」の説明は漁業全般の好条件ではありますが、養殖業が盛んである直接的な理由（波の穏やかさ）とは異なります。
問11	答え 2 青森県と岩手県の境界付近を北緯40度線が通り、宮城県と福島県の境界付近を北緯38度線が通る。	緯度は北へ行くほど数値が大きくなるため、東北地方の北側に位置する青森県・岩手県側が北緯40度、南側に位置する宮城県・福島県側が北緯38度となります。この緯度の違いは日照時間や気温の差、ひいては作物の生育状況や冷害の影響の受けやすさといった地理的課題にもつながる重要な情報です。
問12	答え 2 黄河 → 北上川 → ロッキー山脈 → アパラチア山脈	北緯40度付近の地理的特徴を把握する問題です。中国を流れる黄河、日本の東北地方を流れる北上川を通過した後、太平洋を越えて北アメリカ大陸に入ると、まず西側に位置する険しい新期造山帯のロッキー山脈が現れ、さらに東へ進むと古期造山帯のアパラチア山脈に到達します。この順序を理解することは、世界の主要な山脈や河川の位置関係を捉える上で重要です。